

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	大阪府	市町村名	柏原市	大学名	
派遣日時	令和 7年 8月 8日(金曜日) 9:30~12:00				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 派遣 / <input type="checkbox"/> 遠隔 ※いずれかに○をつけてください。				
派遣場所	柏原市役所				
アドバイザー氏名	和泉元 千春 先生				
相談者(受講者)	柏原市教育委員会 指導課				
相談内容等	<p>【市としての課題】</p> <p>○日本語指導が必要な児童生徒の日本語習得状況の見取り方について、習得状況に応じた適切な指導方法について、<u>専門的な知識や技能に関する研修が足りない</u>⇒日本語指導が必要な児童・生徒が「勉強がわからない」「できない」と感じる原因が、「日本語の理解不足」によるものなのか、それとも「個人の認知的な能力」に起因するものなのか、判断が難しいという声が学校現場から上がっている。そのため、言語発達や認知発達に関する専門的な知識を深めたうえで、<u>すべての子どもに平等に適切な教育の機会が与えられるような、教育内容や指導方法を模索していきたい。</u></p>				
派遣者からの指導助言内容	<ul style="list-style-type: none">・母語と第二言語の関係について(概念の継承など、言語についての科学的な内容)・思考・判断・表現を支える包括的なことばの力について 包括的なことばの力の育成が、学習や認知発達に与える影響について、実際の事例(動画参照)を用いながら解説いただいた。・「日本語が話せない子ども」ではなく、「母語も日本語も話すことができる可能性を有した子ども」と捉える視点。(複数の文化・言語、価値観を持つ子ども)				
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>これまでは、日本語の理解に焦点が当てられる傾向がありました。しかし本研修で、<u>母語の確立や母語との関わりが、認知能力の発達に大きく寄与すること</u>を得ることができました。</p> <p>この認識を踏まえ、今後は日本語指導に加えて、母語の力を活用しながら教科学習を進めるための取組みを求めていきます。<u>学校は指導方法の工夫に取り組み、市はそのための環境整備を進める方針(通訳派遣・翻訳機導入)</u>です。</p> <p>母語の力が日本語習得や教科学習の促進につながるという視点は、まだ広く知られていないのが現状です。そこで、10月に開催される市主催のフォーラムではこの課題を取り上げ、広く周知を図るとともに、教育活動のさらなる充実を目指します。加えて、日本語指導が必要な子どもたちを「<u>多様な文化・言語・価値観を持つ可能性のある存在</u>」として捉える視点を共有し、<u>多文化理解教育の一層の充実を図っていきます。</u></p>				